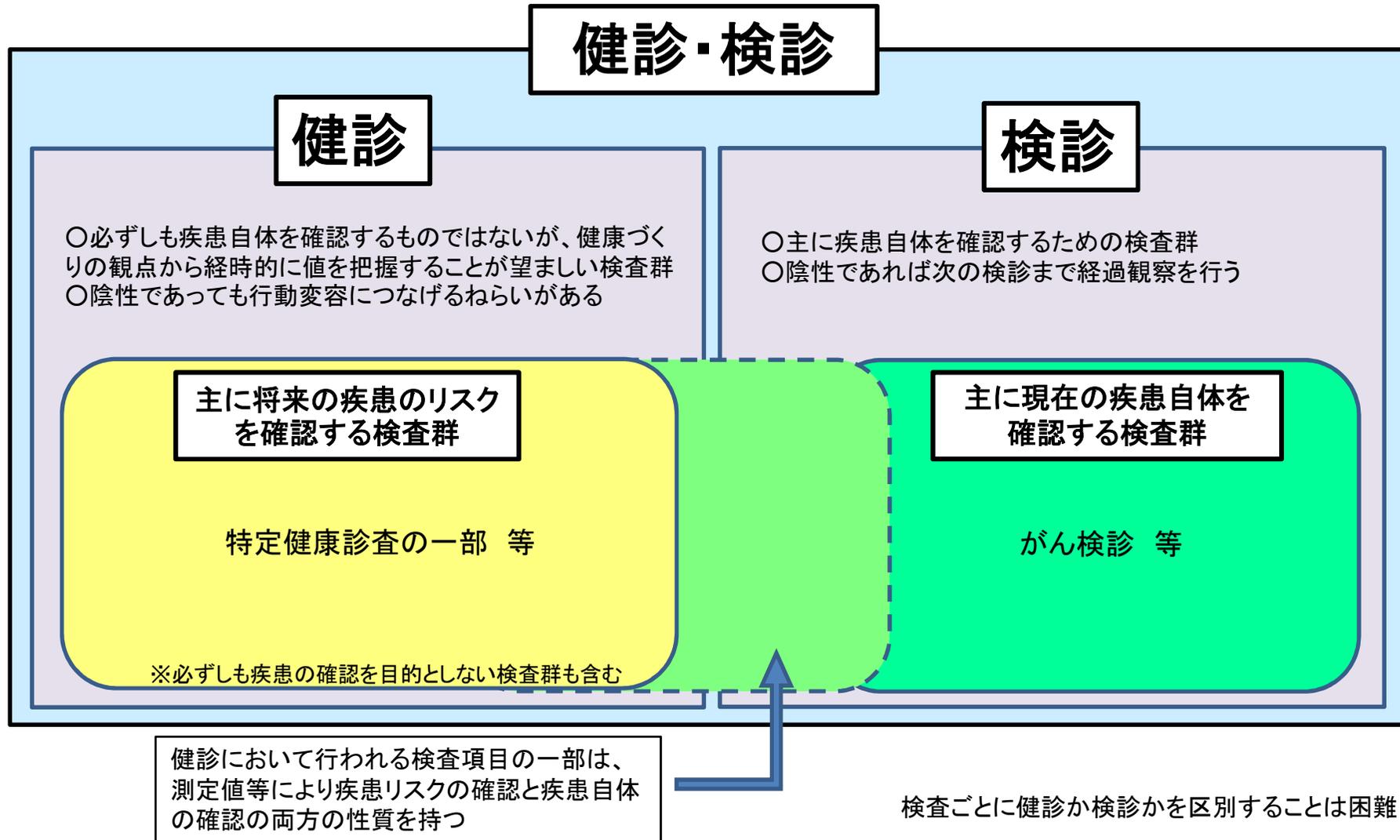


健診・検診の考え方と特定健康診査における 健診項目の位置づけについて

健診・検診の考え方

- 健診は健康づくりの観点から経時的に値を把握することが望ましい検査群。
- 検診は疾患自体を確認するための検査群。



特定健康診査における健診項目の考え方 (これまでの議論の整理)

<健診・検診の考え方について>

◎健診は主に将来の疾患のリスクを確認する検査群であり、検診は主に現在の疾患自体を確認する検査群である。健診において行われる検査項目の一部は、測定値等により疾患リスクの確認と疾患自体の確認の両方の性質を持つ。

(第1回健康診査等専門委員会)

<特定健康診査における健診項目の考え方>

◎健診項目は虚血性心疾患や脳血管疾患等の危険因子もしくは生活習慣病の重症化の進展を早期に発見する項目で、かつ介入可能なものである。

(第2回特定健康診査・特定保健指導の在り方に関する検討会)

・特定健康診査の基本的な項目は、虚血性心疾患や脳血管疾患等の危険因子を早期に発見する項目であり、事後措置は主として特定保健指導

・詳細な健診の項目は、生活習慣病の重症化の進展を早期に発見する項目であり、事後措置は主として受診勧奨

◎健康診査と医療が担うべき役割は区別されるべきである。

(第4回特定健康診査・特定保健指導の在り方に関する検討会)

尿腎機能検査の位置づけについて(案)

○尿腎機能検査は、生活習慣病の重症化の進展の評価を目的としており、事後措置は主として医療への受診勧奨であるため、詳細な健診に位置づけられる。

健診項目

基本的な項目

虚血性心疾患や脳血管疾患等の危険因子の評価

腹囲 血圧 血糖 脂質

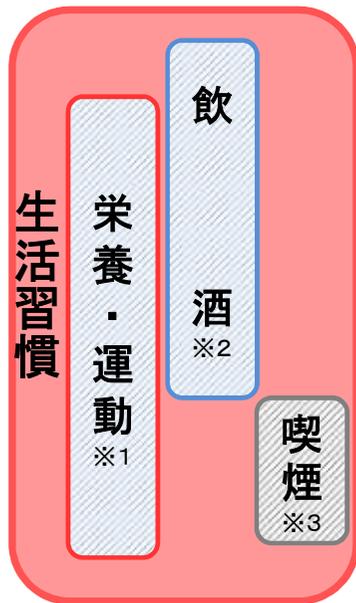
詳細な項目

生活習慣病の重症化の進展の評価

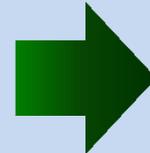
血清Cr(尿蛋白追加も可)

主に予防

主に医療



保健指導判定値以上の者



腎機能障害

腎硬化症
糖尿病性腎症
(40才~74才に多い
・特定保健指導が有効)

慢性糸球体腎炎 等
(・特定保健指導が必ずしも
有効とはいえない)

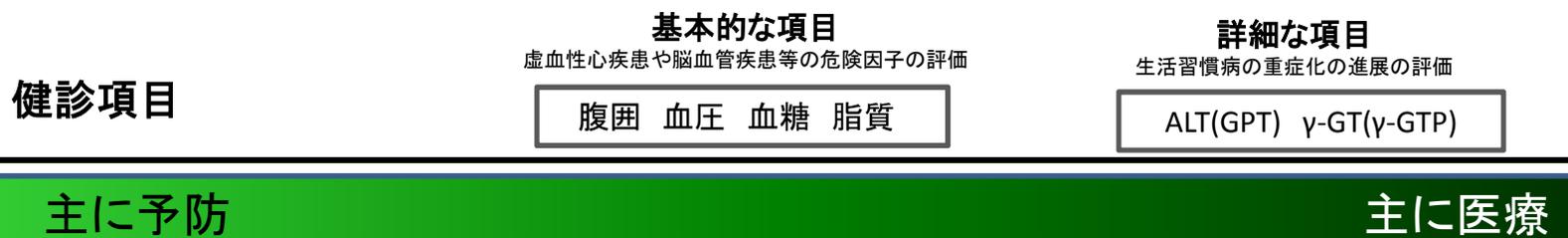


特定健康診査対象者 (Target for Specific Health Examination)

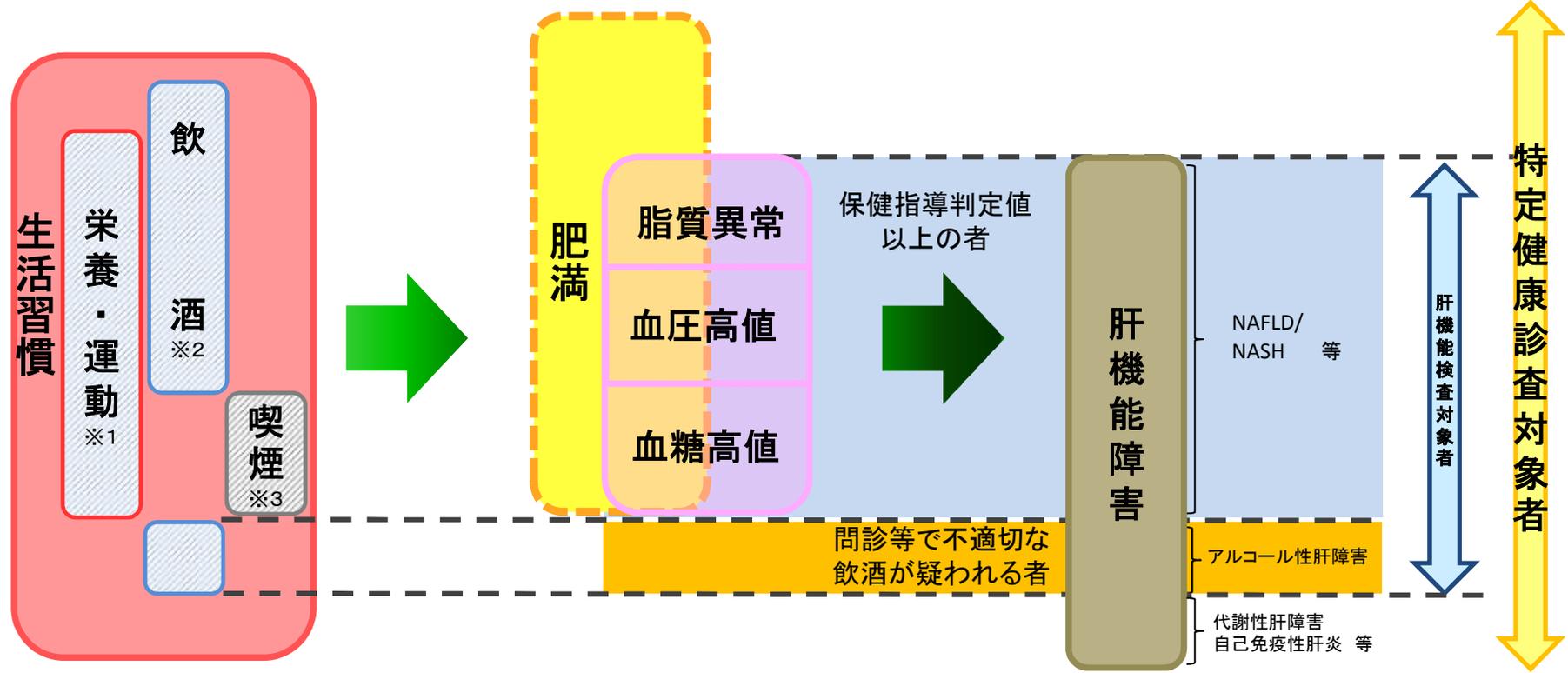
※1 身体活動量の増加や習慣的な有酸素性運動により、エネルギー消費量が増加し、内臓脂肪と皮下脂肪がエネルギー源として利用され、腹囲や体重が減少する。また、身体活動は、骨格筋のインスリン抵抗性を改善し、血糖値を低下させる。また、血管内皮機能、血流調節、動脈伸展性等を改善し、降圧効果が得られる。さらに、骨格筋のリポプロテインリパーゼ活性が増大し、トリグリセライドの分解を促進することによって、HDLコレステロールが増加する。(平成25年3月 健康づくりのための身体活動基準2013)
 ※2 高血圧、脳卒中、脂質異常症等は1日平均飲酒量とともに直線的に上昇するが、全死亡、脳梗塞及び虚血性心疾患については、飲酒量との関係がほぼ直線的に上昇するとはいえない。肝疾患におけるアルコール肝障害の比率と成人1人当たりのアルコール消費量は正の相関を示す。(平成24年7月 健康日本21(第二次))
 ※3 喫煙は循環器疾患(脳卒中、虚血性心疾患)、糖尿病等の原因である。(平成24年7月 健康日本21(第二次))

肝機能検査の位置づけについて(案)

○肝機能検査は、生活習慣病の重症化の進展の評価を目的としており、事後措置は主として医療への受診勧奨であるため、詳細な健診に位置づけられる。省略



主に予防 主に医療



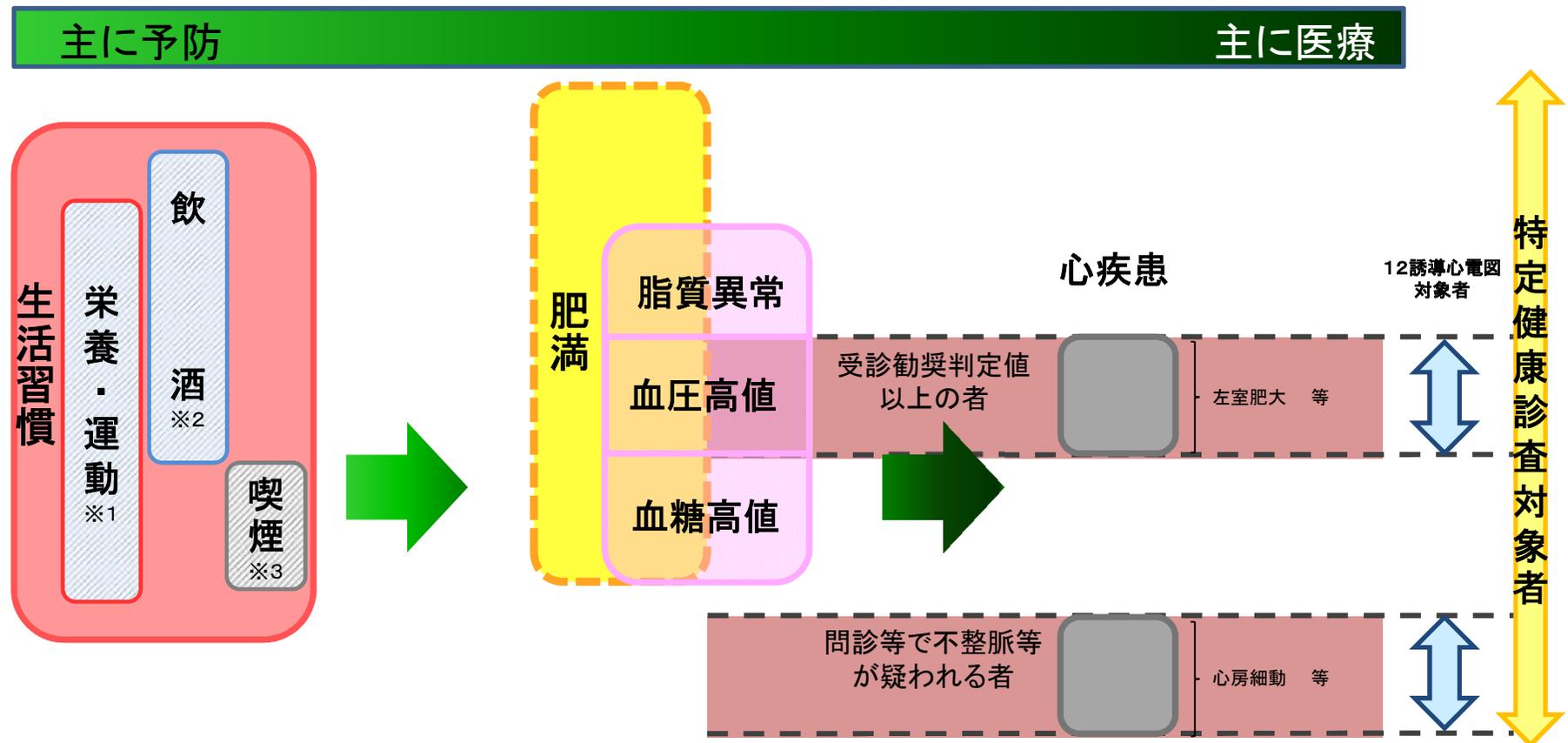
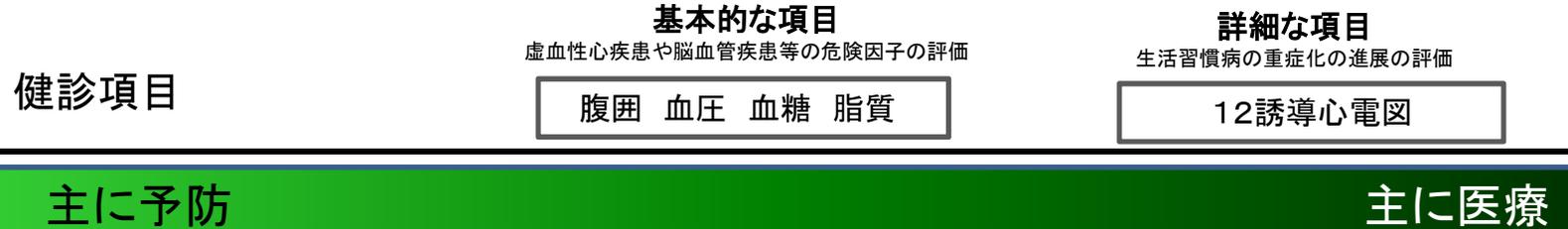
※1 身体活動量の増加や習慣的な有酸素性運動により、エネルギー消費量が増加し、内臓脂肪と皮下脂肪がエネルギー源として利用され、腹囲や体重が減少する。また、身体活動は、骨格筋のインスリン抵抗性を改善し、血糖値を低下させる。また、血管内皮機能、血流調節、動脈伸縮性等を改善し、降圧効果が得られる。さらに、骨格筋のリポタンパク質リパーゼ活性が増大し、トリグリセライドの分解を促進することによって、HDLコレステロールが増加する。(平成25年3月 健康づくりのための身体活動基準2013)

※2 高血圧、脳卒中、脂質異常症等は1日平均飲酒量とともに直線的に上昇するが、全死亡、脳梗塞及び虚血性心疾患については、飲酒量との関係がほぼ直線的に上昇するとはいえない。肝疾患におけるアルコール肝障害の比率と成人1人当たりのアルコール消費量は正の相関を示す。(平成24年7月 健康日本21(第二次))

※3 喫煙は循環器疾患(脳卒中、虚血性心疾患)、糖尿病等の原因である。(平成24年7月 健康日本21(第二次))

12誘導心電図の位置づけについて(案)

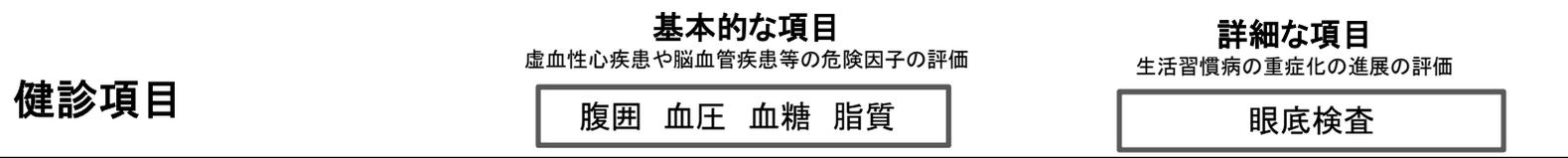
○12誘導心電図は、生活習慣病の重症化の進展の評価を目的としており、事後措置は主として医療への受診勧奨であるため、詳細な健診に位置づけられる。



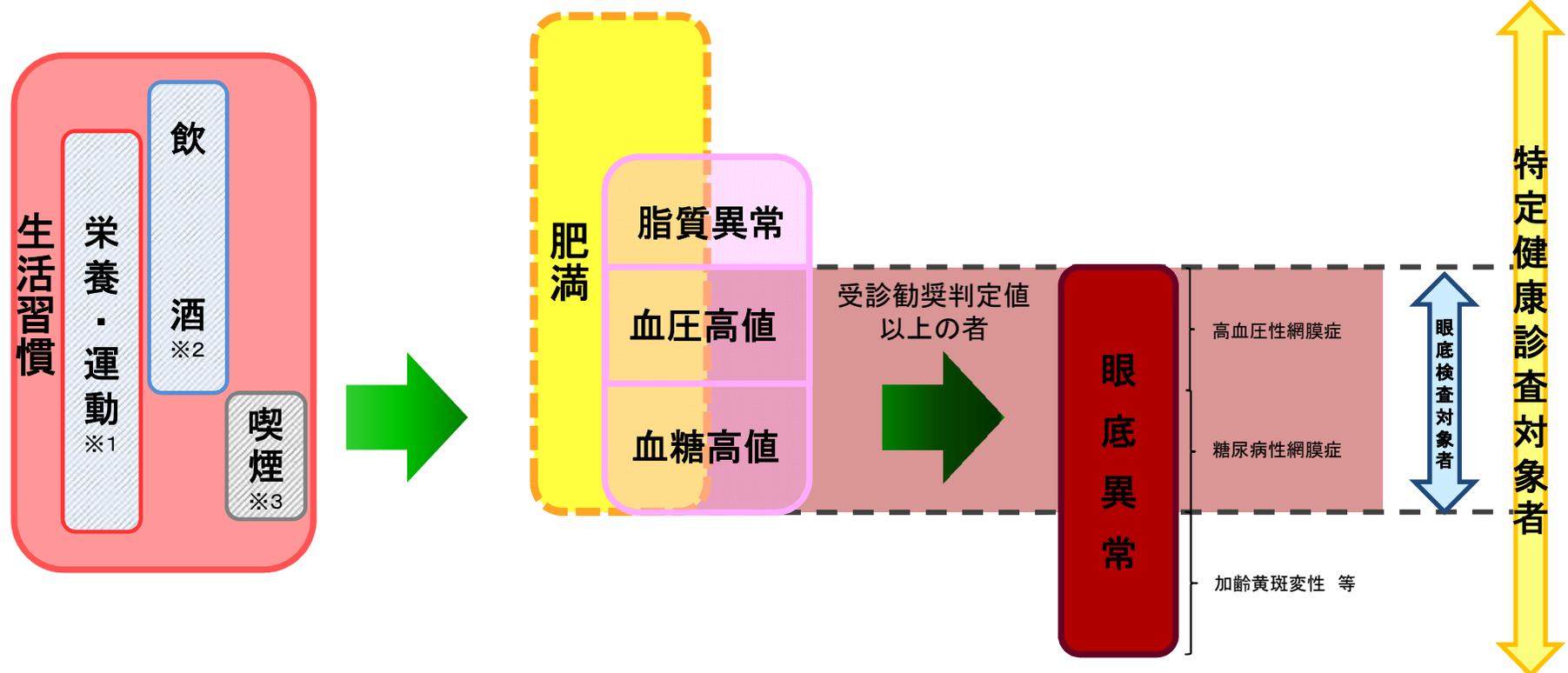
※1 身体活動量の増加や習慣的な有酸素性運動により、エネルギー消費量が増加し、内臓脂肪と皮下脂肪がエネルギー源として利用され、腹囲や体重が減少する。また、身体活動は、骨格筋のインスリン抵抗性を改善し、血糖値を低下させる。また、血管内皮機能、血流調節、動脈伸展性等を改善し、降圧効果が得られる。さらに、骨格筋のリポプロテインリパーゼ活性が増大し、トリグリセライドの分解を促進することによって、HDLコレステロールが増加する。(平成25年3月 健康づくりのための身体活動基準2013)
 ※2 高血圧、脳卒中、脂質異常症等は1日平均飲酒量とともに直線的に上昇するが、全死亡、脳梗塞及び虚血性心疾患については、飲酒量との関係がほぼ直線的に上昇するとはいえない。肝疾患におけるアルコール肝障害の比率と成人1人当たりのアルコール消費量は正の相関を示す。(平成24年7月 健康日本21(第二次))
 ※3 喫煙は循環器疾患(脳卒中、虚血性心疾患)、糖尿病等の原因である。(平成24年7月 健康日本21(第二次))

眼底検査の位置づけについて(案)

○眼底検査は、生活習慣病の重症化の進展の評価を目的としており、事後措置は主として医療への受診勧奨であるため、詳細な健診に位置づけられる。



主に予防 主に医療



※1 身体活動量の増加や習慣的な有酸素性運動により、エネルギー消費量が増加し、内臓脂肪と皮下脂肪がエネルギー源として利用され、腹囲や体重が減少する。また、身体活動は、骨格筋のインスリン抵抗性を改善し、血糖値を低下させる。また、血管内皮機能、血流調節、動脈伸展性等を改善し、降圧効果が得られる。さらに、骨格筋のリポ蛋白質リパーゼ活性が増大し、トリグリセライドの分解を促進することによって、HDLコレステロールが増加する。(平成25年3月 健康づくりのための身体活動基準2013)
 ※2 高血圧、脳卒中、脂質異常症等は1日平均飲酒量とともに直線的に上昇するが、全死亡、脳梗塞及び虚血性心疾患については、飲酒量との関係がほぼ直線的に上昇するとはいえない。肝疾患におけるアルコール肝障害の比率と成人1人当たりのアルコール消費量は正の相関を示す。(平成24年7月 健康日本21(第二次))
 ※3 喫煙は循環器疾患(脳卒中、虚血性心疾患)、糖尿病等の原因である。(平成24年7月 健康日本21(第二次))